

第16回国労東日本本部マラソン大会

被災地から快走



神楽月に入り寒さ増す26日（土）、東日本本部主催第16回マラソン大会が皇居外周コース（5km）で行われました。大会は東日本大震災で被災した地方本部をはじめ、全ての地方本部から健脚の組合員・家族が参加し、駅伝マラソン（16チーム）及び個人マラソン（70名）でタイムを競い合いました。水戸地

方本部からは、豊田貴雄さん（勝田）、寺門姫佳さん（大子家族）、熊田ひとみさん（友人）が個人の部にエントリーし完走を果たしました。また、今大会に昨年まで箱根大学駅伝の経験を持つ組合員（家族）も参加し、トップアスリートの走りを見る事ができ、沿道からの声援と伴に各地本との交流を深めました。

国 労 水 戸

国労水戸地方本部
水戸市中央1-1-11
ENYビル2F
029-221-4008
発行責任者 大和田亨
編集責任者 坂本公則



東日本本部 第16回皇居マラソンコース



職場・地域の活動に自信を持ち、引き続き、組織拡大に全力をあげよう！

2011年度年末手当回答に不満ながらも妥結・整理を図る

国労東日本本部は、11月24日に示された「2011年度年末手当について」の会社側回答について、持ち帰り検討してきた結果、国労本部とも協議のうえ、11月25日11時30分に不満ながらも妥結・整理を図りました。

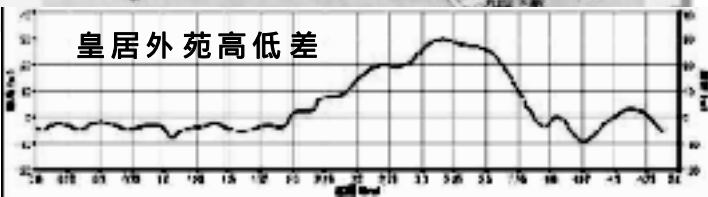
これに対して組合側は、

会社回答は、東日本大震災からの復旧・復興に尽力し、早期に東北新幹線を開通させた社員、パートナー会社社員の奮闘に水を差すものであり、到底受け入れられないこと。

今回の回答水準は、JR発足当初に等しい水準であり、今日のJR東日本の経営体力が反映されていない。過去最低の減収だとしても、引き続き大きな収益をあげていること、純利益の通期見直しについては2年前の水準に匹敵する勢いであることを考慮すれば、あまりに低額であること。

さらに、年間5.38カ月分は、発足4年目の1989年(平成元年)の5.5カ月分を下回る水準であり、JR発足以来24年間、輸送の安全を守り続けてきた社員のモチベーションを著しく低下させることにつながり、会社の発展にとってもマイナスであること。会社回答については再考を強く求めてきたところです。

皇居外苑高低差



国労本部は（11月18日指示第26号）不当解雇とたたかう日本航空労働者を支える会の取組みについて指示を行い、日本航空は、昨年12月31日、客室乗務員84名、パイロット81名、合計165名の大量解雇を強行しました。この無謀な解雇に対して148名の仲間が1月19日に不当な解雇の撤回を求めて東京地裁に提訴しました。この解雇は「整理解雇の4要件」の法理を無視するばかりか日本航空の経営破たんの責任を労働者に転嫁したものであり極めて不当である。しかも、現在会社は史上最高の利益を上げている。裁判で証言に立った日本航空の稲盛会長は「解雇は必要なかった」と述べ、記者会見でも同様の発言を行ってきました。国労は、JALの不当解雇撤回の闘いについて支持・支援する立場からJAL不当解雇撤回裁判原告団の要請を受けて運動を取り組むことを指示します。（詳細は国労本部指示26号参照）